

利用実態と地域住民の意識からみた都市公園再整備の成果と課題

環境資源学専攻 森林・緑地管理学講座 花卉・緑地計画学 黄貝嘉

1. はじめに

公園施設の老朽化, 整備と管理費の減少, 整備水準の地域間の偏り, 少子高齢化による利用者のニーズの変化などの問題から, 民間との連携や施設の長寿命化対策が取り込まれ, 利用者や地域住民の要望を取り入れて, 適切な公園の再整備が求められている。

都市公園の再整備は, 利用実態を変化させ, 満足度を向上させる (Cohen, 2015 など)。近年の公園整備は, 住民への説明会やワークショップを計画のプロセスに位置づけることが一般的で, 住民の公園づくりへの参加意欲と公園への愛着を高めるとも言われる (山田, 2012 など)。しかし, 再整備前後の公園利用者と地域住民の公園の利用と公園への意識の変化を同時に把握し, その成果を検証する研究は見当たらない。また, 札幌市をはじめとした自治体では, 狭小公園が密集する住宅地で, 公園の機能を分担させる再整備を進めており, その成果の検証も求められている。

本研究では, 札幌市の長期間の市民参加を経て再整備された総合公園と, 機能分担による再整備が行われた住区基幹公園を対象に, 再整備前後の利用実態と地域住民の公園への意識の変化を把握することによって再整備の成果と課題を明らかにした。さらに, 公園づくりへの参加経験は再整備後の公園への意識との関連を考察することで, 今後の地域住民のニーズに対応した都市公園の再整備の進め方を検討した。

2. 方法

札幌市豊平区に位置する月寒公園を対象に, 聞き取り調査から利用者の利用実態, アンケート調査から地域住民の公園の利用状況と公園への意識を把握し, 再整備前の調査 (山田, 2012) と比較した。また, 2017年に再整備された15箇所の住区基幹公園を対象に, アンケート調査から地域住民の意識を把握し, 通常再整備公園, 地域の核となる公園および機能特化公園の間で比較した。

3. 結果

再整備後, 月寒公園の利用実態が変化し, 増加した利用者は他の回答者と比較し, 遊具に対してより好印象を持っていた。子どもとの遊びおよび雪遊びをする地域住民が, 増加した。再整備後に地域住民の公園への愛着がやや高まったが, 公園づくりへの参加意欲は変わらなかった。

通常再整備公園と機能分担による再整備公園において, 再整備後に地域住民の公園への印象が改善したが, 公園への印象の平均値が, 地域の核となる公園が通常再整備公園より低く, 機能特化公園がさらに地域の核となる公園より低かった。全般的な印象の向上, 町内の景観向上などの数項目において, 住民説明会への参加経験のある回答者がより好印象を持っていた。

4. まとめと考察

利用者と地域住民は再整備後の月寒公園に対しておおむね高い評価をした。新設された遊具は, 利用実態に変化をもたらす最も大きな要因であると考えられる。住民意識調査から, 新設された遊具と屋内施設兼管理事務所は, 住民の公園利用を変化させた原因である。機能分担による再整備について, 機能特化公園で行われた再整備の内容が地域住民の評価に繋がっていない可能性がある。現状より一層, 行政は地域住民に再整備の狙いや内容を説明し, 計画策定者と意見を交換する場を設け, 住民の参加を呼びかけることが有効だろう。